

産業立地への熱い視線

立地地点の選定理由(2024年):上位10項目

	◎	○
有効回答合計	302	448
本社・他の自社工場への近接性	109	45
市場への近接性	27	32
地価	24	51
人材・労働力の確保	24	49
関連企業への近接性	22	32
工業団地である	15	47
原材料等の入手の便	12	19
国・地方自治体の助成	10	32
地方自治体の誠意・積極性・迅速性	10	29
高速道路を利用できる	7	36

注:◎:最も重要な理由(1つだけ)、○:その他の主な理由(2つ以内)、新設のみの集計。研究所を含まない。
出典:経済産業省「工場立地動向調査」より作成

国内での立地動向を調査したところ、「工場立地動向調査」を活用して確認した。国内の立地動向を調査したところ、「工場立地動向調査」を活用して確認した。国内の立地動向を調査したところ、「工場立地動向調査」を活用して確認した。

立地動向と立地地点の選定

20年代を通じて「本社・他の自社工場への近接性」が第1位であり、ほかの上位項目も大きな変化はない。近年ではこれらの項目が重視されているとされている。海外立地については、低賃金労働力指向がなくなってきた。国内立地は量的な意味での市場指向は難しいものの、特定セグメントの市場や質的な意味で開拓している。市場への近接性「関連企業への近接性」「良好な労働力の確保」。

立地に熱い視線が注がれている。グローバル化の進展に伴い「どこへ」の関心は薄れてきた。しかし、近年の政治経済情勢のもとでは、生産やサービスを通じて「どこで」生み出し「どこに」どのように運ぶかが切実な問題となっている。国内への立地選定にあたり自社内外の事業所とのつながりが重視される。一般的な立地条件の良さだけでなく個別事情との適合性が重みを増している。地域の産業振興と経済社会の持続性については、人に着目することがますます大切になるだろう。

事業所間の相互依存と国内立地

旧来的な立地理論は資源や市場へのアクセスについて輸送費を軸に検討してきた。工場立地動向調査によっても「本社・他の自社工場への近接性」や「関連企業への近接性」は、サプライチェーン(供給網)だけでなく研究開発において近接性が重要になるというところである。距離で示されるような地理的接近性とともに、国内

地域の産業振興と経済社会の持続性

日本では、かつて臨海か内陸かを問わずに整備された工業用地への立地が活発であり地方分散を導いてきた。しかし、相対的に安価な労働力を活用する生産拠点となってきたところは、業務が海外移転したり機械に代替され産業活動を持続できずにいる。旧来的な立地理論は単一事業所の展開を重視し、かつ費用削減を重視している。私たちに今日の展望を導いてくれるわけではない。筆者の前任校のゼミナール生は、「立地を学んでリッチ(rich)になる」ということをキャッチフレーズに使用していた。立地を考えた場合に費用削減だけでなく市場の開拓をはじめ価値を生み出す観点を持つことが大事である。価値



「鶴岡サイエンスパーク」研究開発を支える検査機器

11年3月11日は、台湾に出張中。いくつかのサイエンスパークを訪問した。政府や大学の開発や米国のシリコンバレーとのインテグレーションが、実際にモノやサービスを生産するエンジニアリングの実践には試行錯誤や修正を繰り返す。サイエンスパークは、近接立地のもと集積する傾向が見られる。TSMCを筆頭に台湾発祥の先端産業系の企業の事業所が立地するとともに、日系企業も半導体関連企業を中心に立地している。サイエンスパークの知識がグローバルに展開しやすくなってきた。育成する人材像は、受験勉強の延長線上ではなく「努力になること」によって突破点を見いだしていくタイプである。サイエンスパークは、芸術工系系の大学を卒業した人をはじめ若い人を見かけることも多かった。各地の産地では生産の縮小と高齢化を耳にするので、モノづくりに取り組む人を引きつける興味深い事例であった。大都市圏のサイエンスパークやインキュベーション施設では、相互学習の機会やコミュニティ醸成の仕掛けなどを運営主体が提供しているところもある。革新的な知見を生み出す土壌づくりである。立地に選定される、かつ持続性を高めるには、物理的条件とともに個々の案件に応じたサービス、そして人を育てていく仕組みの場を提供していくことが大事になるだろう。

専修大学
経済学部
教授
長尾 謙吉



「燕市磨き屋一番館」マイスターに磨き技術を学ぶ技術研修生

日本では、かつて臨海か内陸かを問わずに整備された工業用地への立地が活発であり地方分散を導いてきた。しかし、相対的に安価な労働力を活用する生産拠点となってきたところは、業務が海外移転したり機械に代替され産業活動を持続できずにいる。旧来的な立地理論は単一事業所の展開を重視し、かつ費用削減を重視している。私たちに今日の展望を導いてくれるわけではない。筆者の前任校のゼミナール生は、「立地を学んでリッチ(rich)になる」ということをキャッチフレーズに使用していた。立地を考えた場合に費用削減だけでなく市場の開拓をはじめ価値を生み出す観点を持つことが大事である。価値

宮崎県えびの市 対象業種・物流業・製造業・小売業等

えびのインター産業団地

宮崎県の補助限度額50億円
えびの市独自の助成金と九州高水準の宮崎県補助金も併給可能!!

優れた交通アクセス
産業団地から九州自動車道えびのICまで500m。国道にも直結!

良質な「水」と新鮮な「食」
霧島連山の麓に位置し、豊かな自然の恵みである温泉、良質な水として宮崎牛やえびの米など新鮮で美味しい農畜産物が魅力

分譲単価 **12,000円/㎡** (39,600円/坪)

労働力確保を支援
近隣6市町を含めた労働力人口は約7万人。人材マッチングも支援「雇用対策助成金」として1人最大40万円を従業員に直接交付

	総人口	生産年齢人口
えびの市	17,638	8,188
小林市	43,670	21,866
高原町	8,639	4,050
湧水町	9,119	4,201
伊佐市	24,453	11,490
人吉市	31,108	15,261
錦町	10,288	5,330
合計	144,915	70,386

南九州のど真ん中
えびの市で、
新たなビジネスチャンス
を掴みませんか!

Access

高速道路利用での所要時間(えびのICから)
福岡IC 約2時間25分
熊本IC 約1時間20分
宮崎IC 約1時間
鹿児島IC 約50分

空港までの所要時間(えびのICから)
鹿児島空港 約30分
宮崎空港 約1時間20分
熊本空港 約1時間20分

港までの所要時間(えびのICから)
八代港 約1時間10分
宮崎港 約1時間
志布志港 約1時間30分

宮崎県 企業立地課 〒889-4292 宮崎県えびの市大字栗下1292番地
えびの市 TEL 0984-35-3727 FAX 0984-35-0401

企業立地促進補助金(宮崎県・えびの市) 県の補助金と市の優遇制度は併用が可能です。非常に充実した内容となっており、制度の詳細については、ぜひ一度お問い合わせください。